

いなふく かずふみ
稲福 和史 (情報学群 知識情報・図書館学類 2年)



はじめに

映画というものは総合芸術です。シナリオライター・絵コンテ・カメラマン・音声マン・音楽・演出などさまざまな分野の力を合わせて映画は作られます。一方、筑波大学は総合大学です。人文系から自然科学、芸術や情報学までありとあらゆる分野の学生がありとあらゆる活動を行っています。これらの学生を集めれば面白い映画が撮れるんじゃないか？全学の学生を集めて映画を撮ろう！と考えたのがこの企画が生まれたきっかけです。

これは少しレギュラーなことなのかもしれませんが、当初この企画はT-ACTとしてではなく、そもそも企画というほど立派な形もなく名前すらありませんでした。友人を中心に声をかけ、数名で短編映画を撮ってみよう、という非常に私的な試みだったのですが、案外興味を示してくれる人が多かったことから何かしら形が必要だろう、ということで大久保先生に相談したところあっさりと承認されT-ACT「全学的映画制作プロジェクト」がスタートしました。

シナリオ・絵コンテ・テーマソング・キャスティング

さて、人はそれなりに集まった、企画としての名前も得た、となればあとはもう映画を作るだけです。夏休みを使ってシナリオと絵コンテを作り、秋BCモジュールを使ってキャスティングを行い、小道具を作り撮影のための準備をしました。

これらの中で一番面白かったことは何だっただろうか、と思い出してみると、テーマソングができたことが挙げられます。僕自身は音楽にこれっぽちの造詣もないのですが、パーティシパントに軽音サークルの人がいた為、「ちょっとテーマソング作らない？」と声をかけたところ「ええで！」と快諾してもらいました。しばらくすると「できたで！」とデモ音源が返ってきました。そうしたら今度は歌詞をつけよう、ということになりますが、これまたパー

ティシパントに文芸系の人がいた為「ちょっと歌詞つけない？」と声をかけたところ「オッケー」とのこと。またしばらくすると「こんな感じでどう？」と歌詞が完成し、オリジナルのテーマソング「ヒーロー・オン・ザ・ラン」が誕生しました。大学っていろんな人がいるなあ、面白いなあと痛快な気分だったのを今でも覚えています。

撮影

秋学期をまるまる撮影準備に使い、春休みからいよいよ撮影が始まりました。が、ここが本当に苦しく大変でした。連日の撮影だったのですが、トラブルなしに予定通り終わった日はなかったように記憶しています。天候や騒音に悩まされる事もあれば人的エラーも多発し、当初2週間で終わる予定だった撮影は、最終的には春休みをまるまる使うことになってしまいました。そんな中でも、シーンを一つ撮り終えるごとに、また、役者が一人また一人とオールアップしていくごとに完成へと近づいているという実感があり、それを励みになんとか撮影を終えることができました。

T-ACTをどう使うか

やりたいことを実現するためには、どうすればいいか。その答えの一つに「使えるものはなんでも使う」ということがあります。そしてT-ACTはその「使えるもの」に他なりません。ハード・ソフト両面においてT-ACTはやりたいことを支援してくれます。人を集めたいが手段がない、教室申請をしたいが個人だと難しい、やりたい事はあるが筋力がイマイチつかめない、こういったさまざまなハードルもT-ACTというリソースをうまく活用すれば案外あっさり乗り越えられるかもしれません。これを読んでくださっている方がやりたい事を実現できる事を願っています。



撮影前の打ち合わせ



撮影中の様子